

## 4 フィブリノペプチド A (FPA)

フィブリノペプチド A (fibrinopeptide A ; FPA) は、トロンビンがフィブリノゲンの A  $\alpha$  鎖の N 末端側の Arg16-Gly17 の結合を切断して遊離される Ala1-Arg16 ペプチドである。その結果、フィブリンの端々結合に関与する部位が露出する。さらに、トロンビンが B  $\beta$  鎖の N 末端側の Arg14-Gly15 に作用して 14 個のアミノ酸よりなるフィブリノペプチド B (FPB) を生ずるが、この反応はフィブリノゲンの側々結合に不可欠なものである。FPA は、トロンビンの生成によってフィブリノゲンから遊離し血液中で増加するため、FPA 測定は各種の凝固亢進状態の診断・治療の指標として RIA 法や EIA 法の測定試薬により測定されていた。しかし、採血時に検体血漿中に生じる微量のトロンビンの影響を受けやすく、ヘパリンやアプロチニンを入れた特殊な採血管による採血が必要なため、臨床検査として利便性が低かった。同等の臨床的意義があり汎用性も高い TAT や  $F_{1+2}$  の測定が広まったため、現在は FPA の測定キットは販売中止になっている。